

平成31年度・令和元年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

東松島市教育委員会

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査実施日

平成31年4月18日（木）

3 参加児童生徒

東松島市内の小学校6年生（367人）、中学校3年生（331人）

4 調査結果による全体的傾向の概要

(1) 教科に関して

今年度から、問題の形式がA（知識）・B（活用）方式から統一問題へ変更された。また、中学校に関しては国語科、数学科に加え、英語科の調査が実施された。

小学校においては、国語科、算数科とも県及び全国の平均正答率を下回っているものの、昨年度よりも県及び全国との差は小さくなっている。特に算数科については、大幅に差が小さくなり、改善の傾向が認められる。

中学校の国語科は、県・全国の平均正答率を下回り、昨年度同様の結果となっている。また、数学科については、県・全国の平均正答率を下回り、その差は昨年度より大きくなっており、国語科、英語科と比べて最も大きい差となった。

英語科については、県・全国の平均正答率を下回っている。

※ 平均正答率…各児童生徒について全設問における正答数の割合を算出した値（個人の正答率）を足し合わせ、児童生徒の人数で割った値のこと。

(2) 生活習慣等に関して

【小学生】

小学生の「朝食、寝る時刻、起きる時刻」については、県・全国とほぼ同じ結果となっているが、特に寝る時刻に関しては、昨年度よりもよい結果となっており、改善傾向が見られている。同様に「家庭での会話」については、昨年度よりもよい結果となり、全国を上回る結果となった。今後、さらに充実させていけるよう努めていくことが大切である。

【中学生】

中学生の「朝食、寝る時刻、起きる時刻」については、全国を上回り、望ましい結果を得ることができた。特に「寝る時刻」については昨年度の結果より大幅に改善されていることが分かった。また、昨年度課題が見られた「家族との会話」については改善が見られ、県・全国の結果を上回るなどよい傾向にあると言える。今後も基本的な生活習慣の定着を図っていくことが大切である。

(3) 学習時間等に関して

【小学生】

小学生の「自分で計画を立てて勉強する」については、昨年度よりも大きく改善し、県・全国を上回っている。家庭学習の時間に関しては、昨年度よりも改善し、「平日に1時間以上学習している児童」において増加傾向が見られた。

また、全体的に学習意欲や主体的学習態度が向上していることから、さらなる家庭学習の充実を図っていくことが大切である。

【中学生】

中学生の「自分で計画を立てて勉強する」は、県・全国よりも下回っており、昨年度と比較しても課題となっていることが分かった。また、家庭学習の時間に関しても同様の傾向が認められ、「平日に1～3時間」学習している生徒の割合は昨年度より増加傾向にあるものの、県・全国の結果を下回った。授業以外の時間の使い方を見直し、計画的に過ごすよう支援していくことが必要である。

(4) 自尊感情・規範意識等に関して

【小学生】

全般的に昨年度よりも肯定的な傾向を示しており、自尊感情及び規範意識は、次第に高まっていることが分かった。特に「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」の質問に対する結果が県・全国を上回り、よい傾向にあると言える。また、「学校のきまりを守っていますか。」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」の質問にも肯定的な回答が多く、県・全国よりも上回っている。規範意識の向上が見られ、

素直な児童が多いと捉えられる。

【中学生】

小学生と同様に全般的に昨年度よりも肯定的な傾向を示しており、自尊感情及び規範意識は次第に高まってきている。特に「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」の項目については、昨年度の結果を大きく上回った。また「将来の夢や目標をもっていますか。」の項目も昨年度を上回る結果となり、よい傾向にあると言える。一方「自分には、よいところがあると思いますか。」という項目については、昨年度の結果及び県・全国よりも下回る結果となった。一人一人の生徒のよさを認め、褒め、自己肯定感をもたせる声掛けや指導・支援を徹底するとともに夢や目標をもたせ、学習意欲を向上させることが必要である。

小学校で伸びが認められた「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」の質問については、中学校では昨年度同様の結果となっている。今後も「心あったかイートころ運動」を継続・充実させ、児童生徒の意欲や姿を認めていくことで、自己有用感をさらに高めていきたいと考える。

5 調査結果（データ）の概要

5-1 教科に関する調査結果




(1) 正答率一覧（単位%） ※宮城県…仙台市を含む

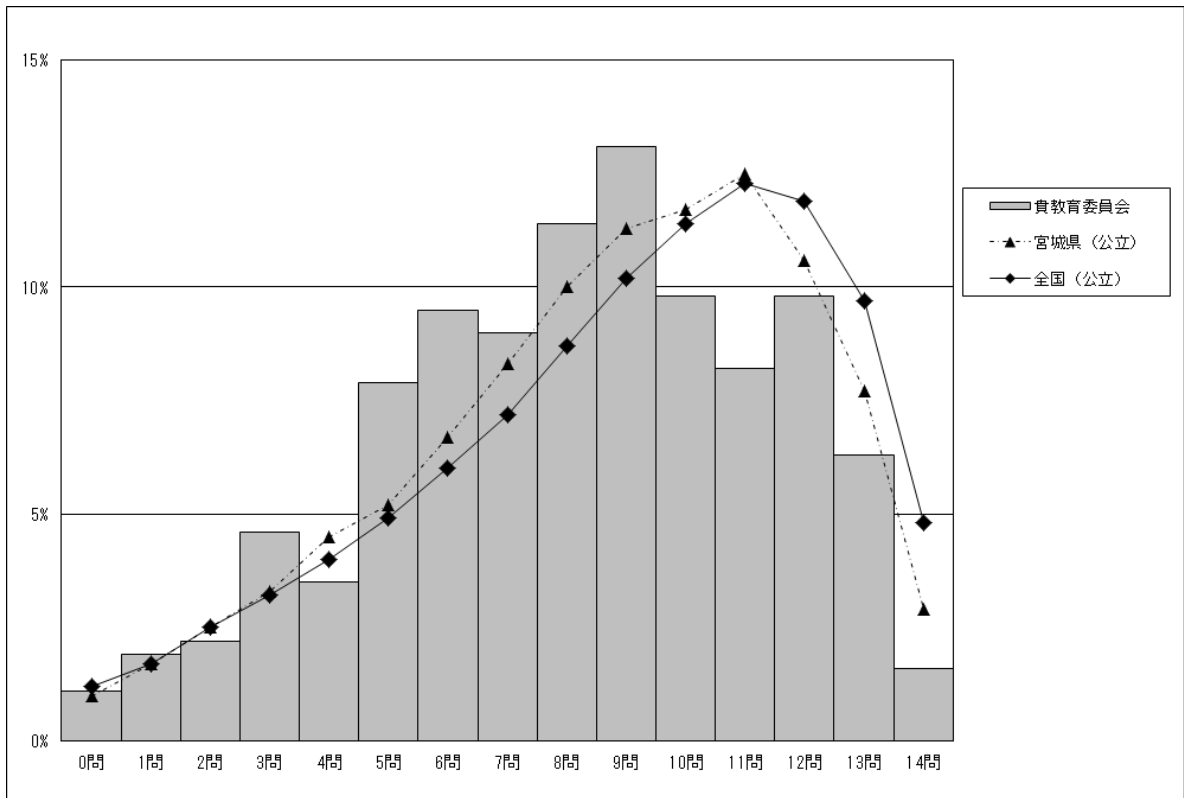
		国語（平成30年度）		国語（平成31年・令和元年度）
		A問題（知識）	B問題（活用）	
小 学 校	本市	64	49	58
	県	69	53	62
	(県との比較)	(-5)	(-4)	(-4)
6 年	全国	71	55	64
	(全国との比較)	(-7)	(-6)	(-6)
中 学 校	本市	74	56	69
	県	77	62	74
	(県との比較)	(-3)	(-6)	(-5)
3 年	全国	76	61	73
	(全国との比較)	(-2)	(-5)	(-4)

		算数・数学（平成30年度）		算数・数学（平成31年度・令和元年度）
		A問題（知識）	B問題（活用）	
小学 校 6 年	本市	56	43	62
	県 (県との比較)	62 (-6)	49 (-6)	65 (-3)
	全国 (全国との比較)	64 (-8)	52 (-9)	67 (-5)
中 学 校 3 年	本市	62	42	50
	県 (県との比較)	65 (-3)	47 (-5)	58 (-8)
	全国 (全国との比較)	66 (-4)	47 (-5)	60 (-10)

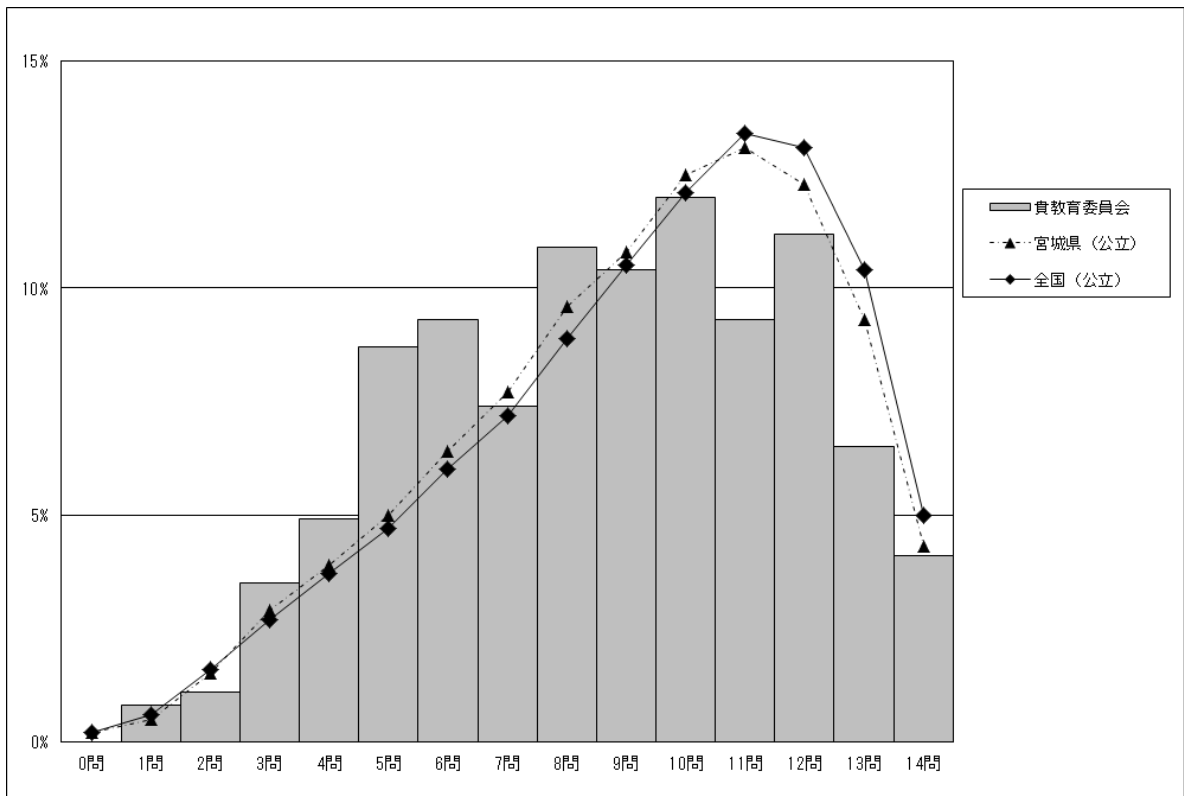
		英 語
		平成31年度・令和元年度
中 学 校 3 年	本市	48
	県 (県との比較)	53 (-5)
	全国 (全国との比較)	56 (-8)

(2) 正答数の分布

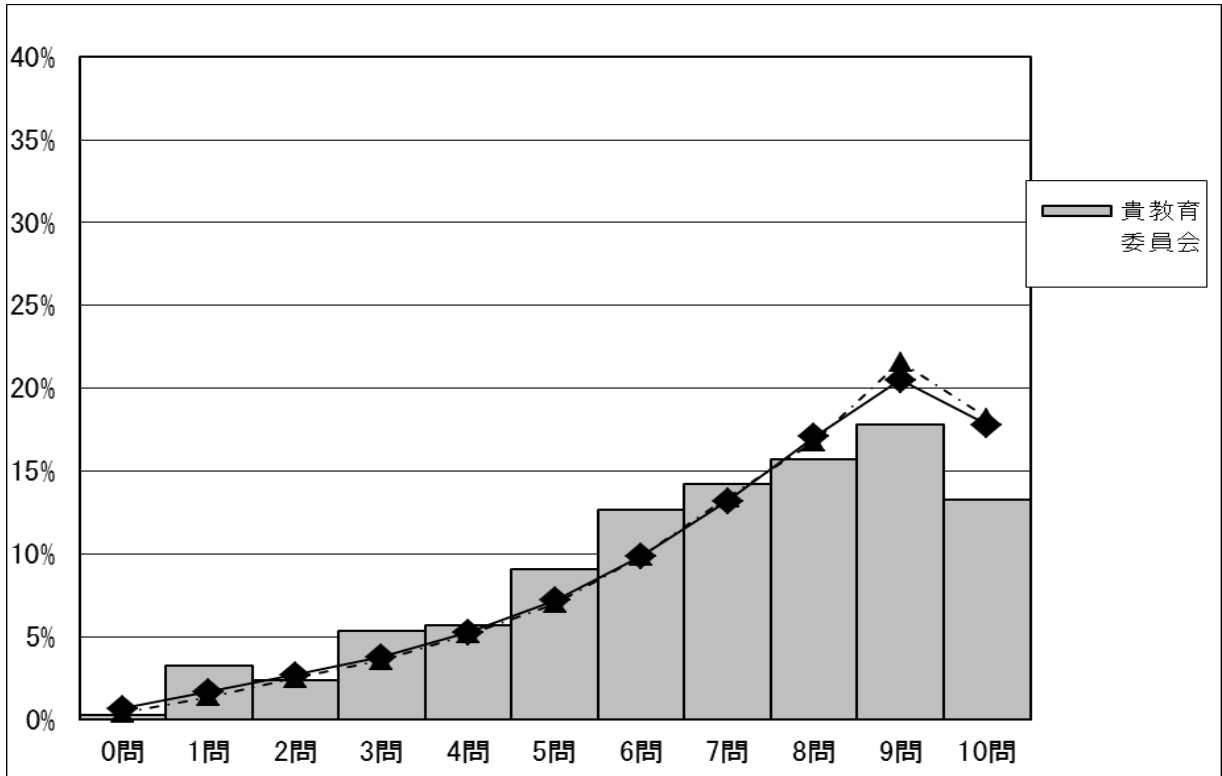
本市  ---▲--- 宮城県  —◆— 全国  縦軸…人数割合 横軸…正答数
小学校国語



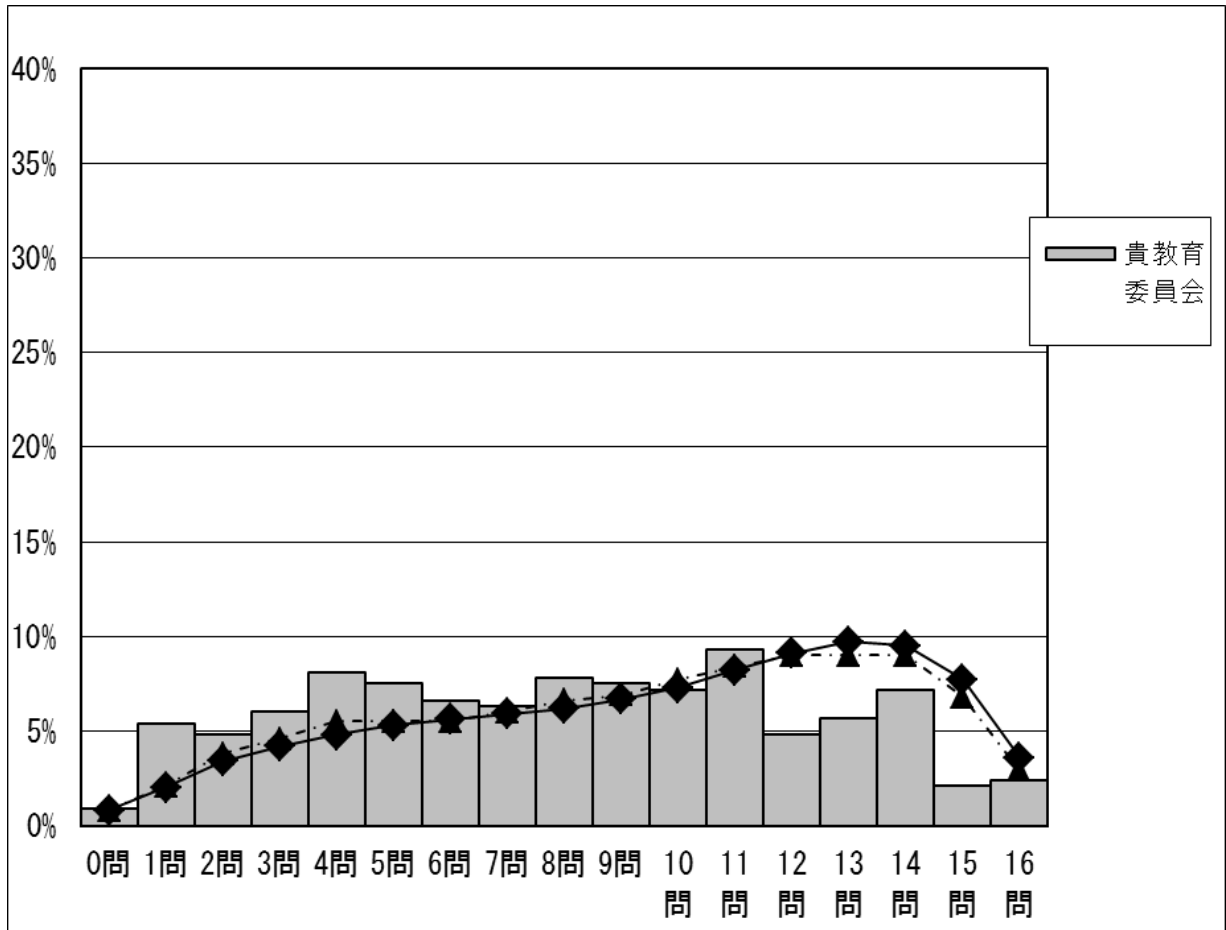
小学校算数



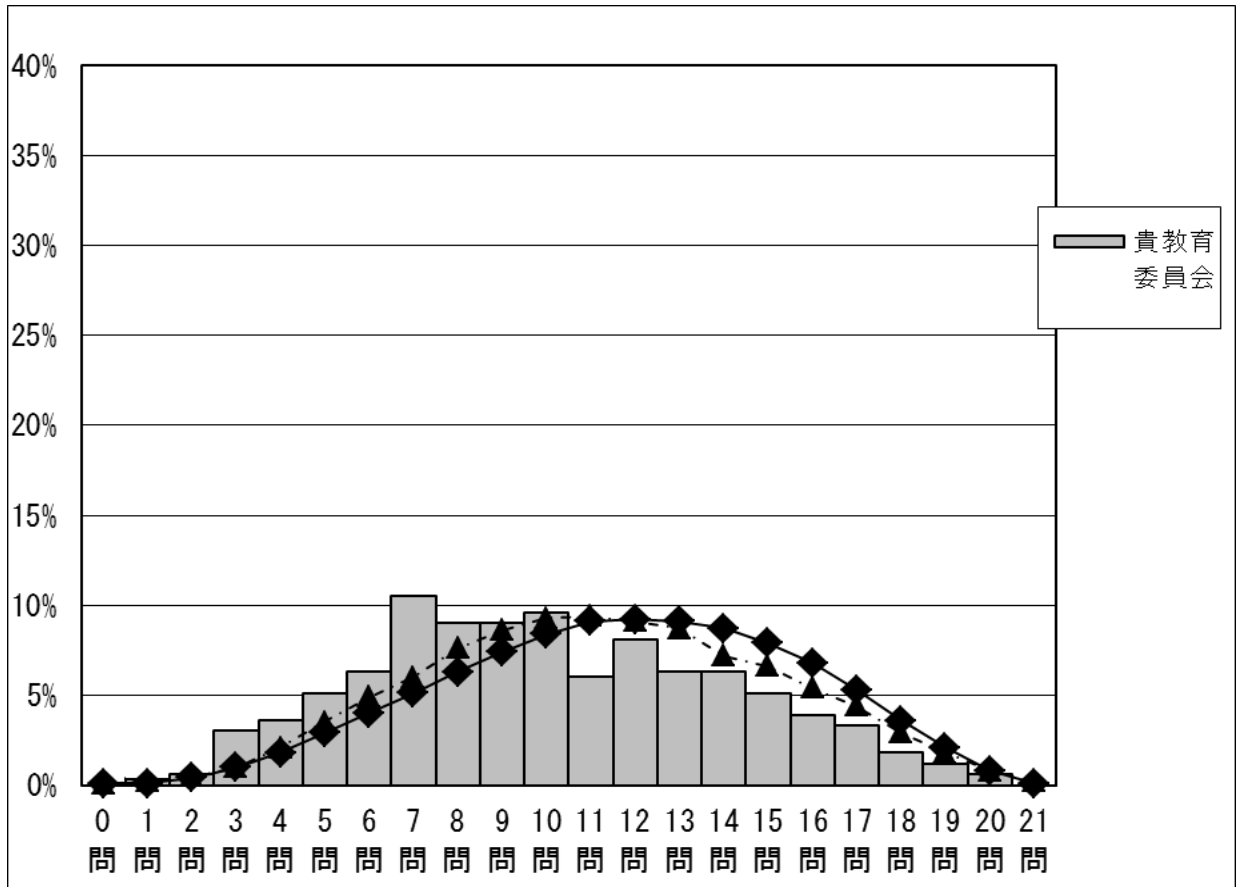
中学校国語



中学校数学



中学校英語



5-2 学習や生活習慣の様子について

(1) 学習に対する関心・意欲・態度

[単位%、()は県との比較]

質問事項			小学校	中学校
1	国語の勉強は好きですか。	R1	67.6 (+3.2)	75.6(+10.9)
		H30		
2	国語の勉強は大切だと思いますか。	R1	92.7 (-0.2)	91.2 (±0)
		H30		
3	国語の授業の内容はよく分かりますか。	R1	90.2 (+5.0)	86.5 (+5.9)
		H30		
4	算数・数学の勉強は好きですか。	R1	72.5 (-4.1)	41.9(-14.4)
		H30	63.3 (-1.0)	51.5 (-2.0)
5	算数・数学の勉強は大切だと思いますか。	R1	92.1 (-1.5)	71.1(-14.6)
		H30	89.2 (-2.3)	82.2 (-1.8)
6	算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。	R1	88.8 (+5.3)	63.3 (-9.3)
		H30	83.0 (±0)	65.8 (-4.1)
7	英語の勉強は好きですか。	R1		45.2 (-9.3)
8	英語の勉強は大切だと思いますか。	R1		71.1(-11.6)
9	英語の授業の内容はよく分かりますか。	R1		51.8(-12.7)

小学校では、国語科、算数科ともに「授業がよく分かりますか。」という項目の結果が県・全国の結果を上回っており、よい傾向にあることが分かった。また「国語の勉強は好きですか。」の項目も県・全国の結果を上回っており、学習意欲の高まりが見られている。

また、中学校では、国語科においてよい傾向が見られ、県・全国の結果を大きく上回っている。一方、数学科、英語科においては、県・全国の結果を大きく下回った。一人一人の生徒が確かに分かり、主体的に学ぶことのできる授業づくりの推進が強く求められる結果となった。家庭学習と関連させながら展開していくことが必要である。

(2) 基本的な生活習慣、家庭・地域生活、家庭でのコミュニケーション

[単位%, ()は県との比較]

No	質問事項	年度	小学校	中学校
1	朝食を毎日食べていますか。	R1	95.9 (-0.6)	94.5 (+0.1)
		H30	94.6 (-0.5)	94.5 (+1.2)
		H29	94.3 (-1.5)	92.1 (-1.8)
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。	R1	82.6 (-1.5)	79.5 (-2.2)
		H30	80.1 (-0.3)	73.2 (-4.9)
		H29	78.2 (-4.9)	75.7 (-3.8)
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	R1	91.0 (-0.9)	93.3 (-0.6)
		H30	90.0 (+6.0)	93.1 (+1.7)
		H29	90.9 (-0.4)	87.9 (-5.1)
4	家の人と学校での出来事について話をしていますか。	R1	78.0 (-1.7)	81.0 (+2.1)
		H30	77.2 (-4.2)	76.2 (-1.9)
		H29	76.7 (-2.4)	72.3 (-4.8)

No	質問事項	年度	小学校	中学校
1	読書は好きですか	R1	73.8 (-1.6)	65.0 (-4.9)
2	新聞を読んでいますか		18.5 (+0.6)	6.9 (-5.8)
3	今住んでいる地域の行事に参加していますか		82.0 (+6.1)	67.8 (+13.8)
4	地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えることはありますか		64.3 (+6.9)	40.0 (-3.1)
5	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか		69.2 (+1.2)	51.5 (-9.3)

「朝食を毎日食べている」「毎日同じ時間に寝ている・起きている」と回答した小・中学生の割合は、ともに昨年度よりも増え、基本的な生活習慣が定着してきていると言える。しかし、県よりもその割合は低く、さらに「はやね・はやおき・朝ごはん」を推奨し、継続的に声を掛けていくことが必要である。

また、小・中学生ともに「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」という質問については、県の結果を大きく上回り、地域が子どもたちの居場所になっていることがうかがえる結果となった。また、小学生については、「地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えることはありますか。」の質問において県の結果を大きく上回り、主体的に地域と関わろうとする意識が芽生えていることが分かった。これは、コミュニティ・スクールとしての取組や地域協働学習の成果であると言える。今後も、家庭・地域・学校で子どもたちを育てていく雰囲気醸成させていくことが大切である。

一方、「読書は好きですか。」という質問については、小・中学生とも県を下回っている。市図書館と連携し、読書環境整備を推進しながら読書を励行していく必要がある。

(3) 学習時間等

[単位%, ()は県との比較]

No	質問事項	年度	小学校	中学校	
1	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。	R1	78.2 (+0.4)	27.7 (-2.9)	
		H30	73.2 (+1.5)	48.4 (-8.0)	
		H29	60.6 (-8.2)	47.0 (-9.3)	
2	学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)。	3時間以上	R1	9.0 (+1.4)	5.4 (-3.4)
			H30	8.3 (+0.9)	6.6 (-0.9)
		2～3時間	R1	18.8 (+2.2)	22.3 (-1.5)
			H30	20.5 (+4.1)	23.6 (-0.5)
			H29	22.4 (+0.6)	24.3 (-6.7)
		1～2時間	R1	40.1 (-3.6)	38.0 (-0.8)
			H30	38.7 (-4.7)	42.7 (+5.2)
			H29	34.0 (-9.6)	34.8 (-2.1)
		30分～1時間	R1	24.5 (-0.3)	18.7 (-1.0)
			H30	24.2 (-0.9)	15.6 (-2.8)
			H29	29.2 (+4.0)	19.5 (+0.5)
		30分未満	R1	8.3 (+2.6)	9.3 (+0.8)
			H30	7.4 (+1.5)	7.1 (+1.0)
			H29	12.7 (+5.7)	11.9 (+3.4)
		全くしない	R1	1.4 (-0.2)	6.3 (+1.8)
			H30	0.9 (+1.7)	4.4 (+0.1)

小・中学生とも昨年度同様に、学校の授業以外の学習時間は県と比べて低い数値を示している。また、昨年度と比べ、家庭での学習時間をしっかりと確保している傾向が見られる一方、『30分未満』、『全くしない』の割合も高くなっている。30分未満の割合は、小学校、中学校ともに県・全国よりも高い結果となった。このことから、家庭学習に取り組んでいる児童生徒と十分に家庭での学習時間を確保できていない児童生徒がはっきりと分かれてきているとも言える。自主学習の内容や仕方の工夫、学年の発達段階に応じた学習時間の確保などを小・中学校を通して位置付けていくことが大切である。単に時間を延ばすだけではなく、何をどのように取り組むのか、質的な充実を目指した工夫が必要である。

今後、「自分で計画を立てて学習する」「家で予習・復習をする」といった家庭学習の習慣が身に付くように『家庭も学びの場』(東松島市教育委員会作成リーフレット)の積極的な活用を推進していく。

(4) 自分を大切にしたいことや社会のルールを守ろうとする意識

[単位%, ()は県との比較]

No	質問事項	年度	小学校	中学校
1	自分にはよいところがあると思いますか。	R1	73.8 (-6.3)	71.4 (-2.8)
		H30	83.7 (+0.3)	72.5 (-6.2)
		H29	75.1 (-1.6)	63.9 (-6.1)
2	先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	R1	86.4 (+0.6)	79.5 (-2.8)
		H30	84.9 (±0)	74.5 (-8.4)

3	将来の夢や希望をもっていますか。	R1	83.4 (-1.0)	71.3 (+0.2)
		H30	84.1 (-1.3)	68.2 (-4.6)
		H29	86.7 (+0.7)	62.1 (-9.7)
4	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	R1	95.7 (+1.1)	93.4 (-0.4)
		H30	94.9 (+0.6)	94.5 (+0.3)
		H29	90.7 (-0.4)	91.8 (+0.5)
5	学校のきまり（規則）を守っていますか。	R1	95.9 (+3.4)	96.1 (-0.1)
		H30	94.9 (+5.0)	94.8 (+0.1)
		H29	94.6 (+2.5)	92.9 (-2.1)
6	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。	R1	98.7 (+1.4)	95.8 (+0.7)
		H30	96.0 (-1.1)	93.2 (-2.5)
		H29	96.3 (-3.5)	90.0 (-2.6)

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。」の質問については、小・中学生とも県を上回った。他者を大切にしようとする意識が高まってきていると言える。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」「学校のきまり（規則）を守っていますか。」という質問への回答でも、小・中学生ともに県の平均を上回るかほぼ同じ結果となった。市全体で取り組んできた「心あったかイートころ運動」の成果の一つであると言える。

一方、「自分にはよいところがあると思いますか。」の質問に対しては、小・中学生とも県を下回っていることが分かった。学校や家庭において、子どもの頑張りや小さな伸びを認め、自己肯定感を高めてやる必要がある。自己肯定感が高まりを見せると、失敗をおそれずに、目標に向かって新たな課題に意欲的に取り組むことができるようになる。今後も、教育活動の中で意図的に児童生徒に「自己存在感を与える」「自己決定の場面を与える」「共感的な人間関係（児童・生徒・教師・保護者・地域の人々も含めて）の構築」といった生徒指導の3機能を踏まえた継続的な指導を行うことが必要である。

5-3 自己肯定感や読書活動と学力の関係について

(1) 自己肯定感と学力の関係

「自分にはよいところがあると思いますか。」

校種		平均正答率 (%)		
		国語	算数・数学	英語
小学校	当てはまる	59.8	63.4	
	当てはまらない	51.3	51.6	
中学校	当てはまる	70.4	51.8	50.4
	当てはまらない	58.5	41.6	41.9

「自分にはよいところがあると思いますか。」という質問に対して、「当てはまる」と回答した児童生徒と「当てはまらない」と回答した児童生徒の各教科の平均正答率を比べてみると、8.5ポイント～11.9ポイントの開きがあることが分かった。このことから、自分を肯定的に捉えることが、学習意欲や学習の定着に良い影響を与えていると言える。一人一人のよいところを認め、励ましていくことで、苦手なことにも取り組むことができ、課題解決に向けて粘り強く取り組むことができるようになると考えられる。今後も児童生徒のもつよさを認めつつ、次に向かって励ましていくことが大切である。

(2) 読書活動と学力の関係

「読書は好きですか」

校種		平均正答率 (%)		
		国語	算数・数学	英語
小学校	当てはまる	63.2	63.0	
	当てはまらない	50.2	60.5	
中学校	当てはまる	78.2	61.1	54.7
	当てはまらない	58.3	43.1	44.4

小・中学生ともに「読書は好きですか。」の質問に対して「当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率は、「当てはまらない」と回答している児童生徒の平均正答率を全て上回る結果となった。特に中学生についてはその差が大きくなっている。「当てはまる」と回答している児童生徒が継続して読書に親しんでいることが予想されることから、読書のよい影響が蓄積されてきていると考えられる。

市図書館等と連携し、読書の励行と読書ジャンルの拡充を図り、児童生徒が読書に親しむことができるよう、メディアコントロールと合わせて取り組むようにする。

6 「確かな学力」の育成に向けた本市の取組

児童生徒の学習支援	教師の指導力向上	教育環境整備支援
<p>◎学び支援事業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平日放課後の学習支援 ・週末の学習支援 ・長期休業での学習支援 	<p>◎校内研究・指導主事訪問の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究の実施 ・協働研究の充実 ・一人一回の研究授業 	<p>◎各種支援員の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育支援員 ・学校相談員 ・学校図書館支援員
<p>◎読書のすすめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館支援員を配置 ・読み聞かせボランティアの活用 ・市図書館との連携 	<p>◎各種研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上授業研修会 ・教師塾 ・ICT活用研修会 ・Q-U活用研修会 	<p>◎コミュニティ・スクールの取組充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校環境改善の支援 ・学校運営協議会での学力向上策検討や熟議の実施
<p>◎「家庭も学びの場」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーフレットの積極的な活用 <p>◎ALTの配置 (英語で話そう)</p> <p>◎ICT機器の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板 ・タブレット 	<p>◎CRT・全国学力・学習状況調査の活用</p> <p>◎魅力ある学校づくり調査研究事業</p> <p>◎学力向上推進委員会</p>	<p>◎授業日数増加</p> <p>◎教室へのエアコン整備</p> <p>◎ICT環境の整備</p> <p>◎プログラミング教材の整備</p> <p>◎メディアコントロールの推進</p>

本市では、宮城県教育委員会が示している「学力向上に向けた5つの提言」(※)を踏まえ、児童生徒の「確かな学力」の向上を図るため、次のような取組を行っております。

(1) 授業改善に向けて

- ① 全国学力・学習状況調査や CRT 検査の分析及び普段の授業から見られる課題等をもとに、児童生徒の実態把握に努め、学力向上に向けた具体策を構築し、その徹底と継続に努めます。
- ② 各中学校区の小・中連携(矢本一中、矢本二中、鳴瀬未来中の小・中学校連携)による授業参観や学力向上の研修会を行い、小・中学校の円滑な接続に努めています。
- ③ 各学校で教科・テーマを決めて取り組んでいる学力向上に向けた校内研究を一層活性化し、外部指導者等を招聘するなどして教員の授業力向上に努めています。

- ④ 今年度は市内小・中学校の教員12名に学力向上推進委員を委嘱しました。学力向上推進委員は、市内小・中学校の学校訪問において授業参観や各教科分科会へ参加をしたり、児童生徒の学力向上に向けた具体的な取組について方策を共有し各校の校内研究の充実化を図ったりするなど、授業改善や教員の指導力向上のための、市の中心的役割を担っています。
- ⑤ 市内小・中学校教員の参加希望者を対象に「教師塾」を年間7回実施し、毎回多彩な講師による指導のもと、教員自らの授業実践力の向上を図っております。
- ⑥ 国語科と算数・数学科の到達度テスト（CRT 検査、対象：小2～中3）を実施し、市内小・中学校長会との連携により、その結果分析を行い、学力向上推進委員会を通して授業の工夫、改善策をまとめ、各校の授業づくりに生かしています。
- ⑦ 県教育委員会に加配教員の配置拡充を要請し、TT 指導や少人数指導など個に応じた指導体制工夫を図っていきます。
- ⑧ 主体的、対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）などの効果的活用により、教科の特性に応じた授業づくりを進めるとともに、新学習指導要領の完全実施に向けた年間指導計画の早期作成と自校化を進めていきます。
- ⑨ ICT 機器及び環境整備を進め、効果的な教材の開発と児童生徒の興味関心を高める授業づくりに取り組んでいきます。

（2）学習習慣の定着に向けて

- ① 中学校区ごとに、小・中学校の教職員が定期的に情報交換を行い、中学校区共通で学習習慣の定着について確認をし、指導の徹底を図っていきます。
- ② 宿題に加え、児童・生徒が自ら自主学習に取り組むことができるような課題の与え方を工夫し、家庭学習推進の啓発を図ります。
- ③ 家庭と連携し、児童生徒の基本的な生活習慣の確立を目指した取組を強化します。特に、TV視聴、ゲーム、携帯電話やスマートフォン等に費やす時間の削減に向け、PTA や地域と連動した取組「メディアコントロール」の推進を図り、実践につなげていきます。
- ④ 学び支援コーディネーター事業により、「週末学習会」を実施したり、放課後や土曜・日曜、長期休業期間の児童生徒の学習をサポートしたりしています。
- ⑤ 各家庭に配付しているリーフレット「家庭も学びの場 望ましい生活習慣や学習習慣づくりに向けて」や児童生徒に配布している「学習の手引き」に基づき、家庭における生活習慣や学習習慣づくりの呼び掛けを行っています。
- ⑥ 中学校区ごとに、学校図書館支援員を配置し、各小・中学校の図書室の本の整理をしたり、貸し出しにおいてバーコードシステムを導入したりするなど、児童生徒がより本に親しみ、読書活動に取り組むことができるような環境整備に努めています。

(3) 志をもつ児童生徒の育成に向けて

- ① 生徒指導の3機能（自己存在感・自己決定・共感的理解）を生かした温かな人間関係づくりや学級づくりを進め、一人一人が大切な存在であるという人権教育の視点に立った教育を展開し、将来に夢と希望をもち、志高く生きる児童・生徒の育成に努めます。
- ② 市内の中学校区ごとに展開している「志教育」では次のような取組を行っています。
 - ・心あったかイートころ運動（「あいさつ」「清掃」「ごみ拾い」）の継続的な実施と実践発表会（中学校区ごとに年1回）の開催。
- ③ 各学校では、確かな学力を支える健康な体づくりと体力の向上に努めています。
 - ・「体力・運動能力調査」の結果考察に基づく様々な体力づくり運動の取組。
 - ・「はやね・はやおき・朝ごはん」の推奨。
 - ・子どもの健康な体づくりに向けた食育の推進。
- ④ 地域ぐるみで児童生徒を育てる教育活動の充実を図っています。
 - ・コミュニティ・スクールの推進（平成30年度までに市内全小・中学校をコミュニティ・スクールに指定し、各学校での取組が始まっています。）
 - ・協働教育（プラットフォーム）推進事業の充実。
 - ・職場体験学習等を中心としたキャリア教育の充実。

家庭も学びの場

～望ましい生活習慣や学習習慣づくりに向けて～

<家庭学習の7つのつぼ！>

東松島市学力向上推進委員会

- 1 宿題（課題）以外の学習メニューを自分で考える。
- 2 自主学習ノートをつくる。
- 3 何度も繰り返しやってみる。
- 4 いろいろなことに興味をもって、毎日コツコツ続ける。
- 5 絵や図、グラフなどを取り入れる。
- 6 覚えていないところ、苦手なところを見逃さない。
- 7 1週間のサイクルで自主学習ノートを振り返り、自分のがんばりを見つめる。

<学習を定着させるには復習が大切！>

- 1 学校で学んだことを、家庭で反復すると忘れる量は少なくなります。
- 2 復習は、学んだ直後の方が効果は高くなります。

※具体的なリーフレットは、東松島市ホームページ 教育委員会 教育総務課内にあります。ご利用ください。

※「学力向上に向けた5つの提言」

(平成25年10月 宮城県教育委員会)

- 1 どの子どもにも積極的に声掛けをするとともに、子どもの声に耳を傾けること。
どの子供にも一日一回は声を掛け、子供の話をじっくり聞くことが、心のケアや人間関係づくりにつながります。
- 2 子どもをほめること、認めること。
子供は、ほめられると集中力が高まります。授業中にほめたり認めたりすることは、学習評価の一つです。
- 3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。
本時のねらいをより具体的に設定し、1単位時間で育てる力を明確にします。授業の終末には、子供の学びを的確に把握し後の指導に生かすようにしましょう。
- 4 自分の考えをノートにしっかり書かせること。
黒板を書き写すだけでなく、自分の考えをノートに書くように指導します。書くことは、思考力、表現力を育てます。ワークシートではなく、ノートづくりを徹底しましょう。
- 5 家庭学習の時間を確保すること。
学校で学んだことを家庭で復習することは、知識や技能の定着につながります。予習は授業での理解を早めます。何よりも、保護者から、子供に声を掛けたり子供の努力を認めたりすることが、家庭学習への意欲づけにつながります。そのことを保護者に伝えましょう。また、各学校で作成している「家庭学習の手引き」の中に、家庭学習のメニューを具体的に記載するとともに、適度な量の宿題を課しながら家庭学習を習慣づけましょう。

理 解・継 続・自校化

(学力向上に向けた5つの提言の充実に向けた「3つの柱」)

【理 解】

- それぞれの5つ提言の意味を確認しましょう。
(その中に含まれた意味も確認しましょう)

【継 続】

- 学校生活のあらゆる場面で継続しましょう。

○ 終結まで確実に終える授業を継続しましょう。

○ 9年間の継続を図りましょう。

【自校化】

○ 自校のよさと課題を踏まえた自校化をはかりましょう。

(平成29年10月 宮城県教育委員会)

7 保護者、地域の皆様へ

今回の調査からも、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、知識の活用を図る指導の充実が、学力向上にとって極めて重要であることが分かりました。

また、家庭における「はやね・はやおき・朝ごはん」などの生活習慣はもとより、テレビの視聴時間、ゲームをする時間、携帯電話やスマートフォンの使用時間について節度をもつことや、計画的に家庭学習をすることが、本市の学力向上に大きく寄与するものと考えられます。

児童生徒の確かな学力の定着を図るために、各家庭でも以下のような取組をお願いします。

- **基本的な生活習慣（はやね・はやおき・朝ごはん）や家庭学習習慣（学年に応じた内容、時間を決めた取組等）**を身に付けさせましょう。
- **テレビ視聴時間やゲーム、携帯電話・スマートフォン等の利用**については、お子さんとしっかりルールを作りましょう。
- **家庭での読書**をさらに勧め、1つのことに集中する姿勢を身に付けるとともに、文字に触れる機会を大切にしましょう。
- 様々な場面において、子どものよさを見だし、**本気でほめてあげ**ましょう。
- 郷土の自然や文化に触れる**幅広い体験**をさせましょう。

自尊感情を養いながら、将来への「志」をもたせることが、学力向上の土台であり、学習習慣や生活習慣を確立させていくことが極めて重要です。

今後も、子どもたちに対して、家庭や地域での温かい見守りやお声掛けをよろしくお願いいたします。